

第12回 生産マイスター検定 ベーシック級の結果振り返りと現場の活動から

生産マイスター検定委員 石山 真実

■ 第12回検定の結果を振り返る

ベーシック級の結果を振り返りますと、「品質」の正答率が52.5%と低い結果となりました。他の単位が前回より正答率が向上している中で、「品質」のみ下がってしまいました。

内容を見てみますと、「品質コスト体系」や「品質の維持管理」、「5M（人、設備、材料、作業方法、測定）の日常管理」、「品質責任の明確化と作業者が不良をつくらないための条件」、「不良低減の手順」、「ヒストグラムとパレート図」について誤解等が多い結果になっています。どこが弱いというより、全般的に理解不足ということが懸念されます。

「品質」は、お客様が皆さんの製品を購入するか判断する時の最重要項目になります。したがって、生産現場では、安全とともにまず強化しなければならない項目になります。守るべき品質の基準となる品質規格や標準を十分理解し、日ごろの業務と関連づけて、学んだことを活かしていくことが重要です。あわせて、品質改善を進めていく上で非常に役立つ「QC7つ道具」の意味と活用方法も理解いただき、現場での品質改善に活用いただきたいと思います。現場に活かすことを意識しながら改めて学習することで、理解レベルが向上できると思います。

またその他の単位では、「コスト」の計算問題が例年通り弱かったようです。計算式を覚えるというより、その計算で何を明確にしているのか、それは何を意味しているのかを理解いただくことが重要と考えます。是非、もう一度テキストを見返していただけたらと思います。

■現場の活動から

最近コンサルティングをしているA社では、現場メンバー自らの活動で、「ものづくりの力を向上しよう」という活動をしています。

特に力を入れているのが、「全員がその職場のナンバー1レベルになろう」という活動です。もちろん改善活動も進めていますが、むしろナンバー1を目指す活動のほうが大きな効果が出ています。

ナンバー1といっても、いろいろなナンバー1があります。作業の正確性ナンバー1、段取り切替えナンバー1、設備故障予知のナンバー1、などいろいろな仕事のナンバー1の人を皆で決めて、その人が「なぜ他の人よりうまく仕事ができるのか」を皆で解明し、標準化し、それを練習して全員がナンバー1を目指しています。

この活動を推進していったところ、

（一社）人材開発協会

- ・ナンバー1の知見を学ぶことで、ナンバー1の方自身にも光がすごく当たるようになった
- ・自分にはまだまだできない、と思っていたことができるようになり、皆の達成感が大きく向上して仕事が楽しくなった

このような話があちらこちらから出てきて、職場がずいぶん明るくなりました。どうでしょうか、皆さんもすぐにでもできる活動ではないでしょうか。

以上